

一緒に始めませんか、あなたの挑戦も応援します！ ～共に創る これからのふくろい～

発行日：令和5年8月21日
発行：袋井市企画政策課

「創生会議」ふくろい部会

今後、人口が減少していく社会であっても
市民が暮らしやすく、まちが発展していくためには…

外国人との共生社会
その実現に向けた課題とは…

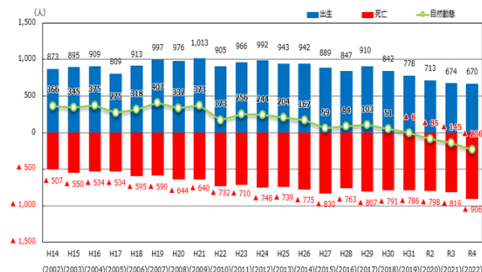
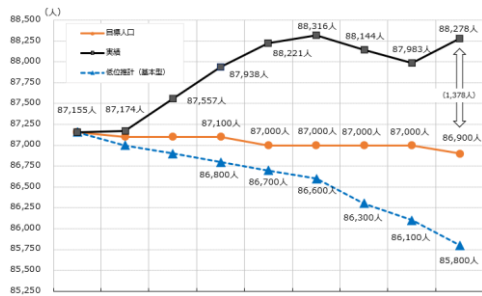
デジタル社会の光と影
期待や不安は…

官民共創のまちづくり
行政に期待する役割とは…

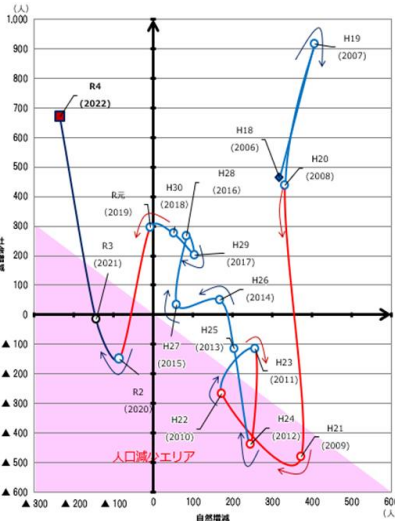
2023.7.31 @袋井市教育会館 大会議室

(地方創生の進捗状況)

本市人口は**88,278人**(R5.4.1現在)。コロナ禍での婚姻・出産控えなどにより、出生数が引き続き年間600人台で推移したほか、死亡数が900人を超え、**自然増減の減少**が拡大。社会増減は、**日本人が転入超過**(R4▲14人→R5+53人)に転じ、**外国人の人口も643人の増加**となり、人口ビジョンで設定した目標人口に対して、**目標推計人口を上回る水準を維持している**。また、長年課題になっていた**子育て世帯の転出入は「概ね均衡」に好転した**。



人口ビジョンで設定した目標人口に対しては、**目標推計人口を上回る水準を維持している**。



新型コロナウイルス感染症の拡大やデジタル化の進展により、自然豊かなゆとりのある生活環境に魅力を感じる人やテレワークにより転職せずに**地方で働ける人が増加**するなど、社会の価値観やライフスタイルが変化したことで地方暮らしへの関心が高まっていることに対し、引き続き、迅速かつ適切に対応することが必要。

各取組の指標を踏まえ、
令和4年度 of 取組の総括は
「いい調子」と評価

挑戦1 「ふくろい人」人づくりへの挑戦

- 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるため、学習アプリを活用して、基礎学力の定着を目指す **個別最適な学びへの効果や取組状況を学習カルテとして可視化**することで、児童生徒の主体的な学びへの効果を検証をした。
- 市内県立高校と特別支援学校との連携協定に基づき、**地域活性化に向けた高校生の発意をカタチにする**ため、それを応援したい地域の大人を繋げるプロジェクトを支援した。
- 首都圏で活躍する本市ゆかりの方々との交流を通じて、**新たな分野や夢に向かって挑戦する人を応援する機会を創出**した。

評価



いい調子です

(3.6点)

挑戦2 「しっかり稼ぐ」しごとづくりへの挑戦

- ふくろい産業イノベーションセンターにおいて、企業が持つビジネスアイデアや課題提案を通じた分野の垣根を超えた交流機会として「**ふくろい産業イノベーションピッチ**」を開催した。
- ふるさと納税返礼品を取扱う市内事業者らとともに首都圏のイベント「**青山ファーマーズマーケット**」に出店し、市場ニーズの把握や新たな市場の開拓に向けた交流機会の創出を図った。
- 市内の食や観光資源を紹介した動画を製作したほか、**観光地などで撮影した写真や動画を募り、SNSを活用したコンテストを開催**するなど、市民参加型のシティプロモーションの充実・強化を図った。

評価



いい調子です

(3.8点)

挑戦3 「支え合い」誰もが活躍するまちづくりへの挑戦

- 人生100年時代の地域経営のあり方に関する調査研究では、官民共創ワーキンググループにおいて、**学校や花をテーマとした共創の実践**をはじめ、各種イベントでの試行実証を実施した。
- 地域コミュニティ活動の情報発信を強化するため、**コミュニティセンターのLINE公式アカウントや地域版ホームページを活用した情報発信の有効性**を検証した。
- 「やさしい日本語」研修会の開催など共生社会の推進に向けた取組を充実させたほか、**外国人のための防災ハンドブックの配布**など、異文化理解を深める取組を推進した。

評価



もうひと踏ん張り

(3.4点)

主な意見（人口が減少していく社会においても、人が輝き、まちが発展していくためには…）

■外国人との共生とは、多様性のある社会の実現ということ。多様性を語る際には、少数派の人たちの意見をよく聞く必要があり、その意見をどのように取り込んで社会を発展させていくかということが重要。

■女性活躍や外国人との共生等、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）に十分注意してアンケート調査などにも取り組んでいく必要がある。

■仕事を求めて来る方も重要ではあるが、お茶や文化など「自分の好きなもの」を求めている方の熱意と行動力は凄い。距離やコストなど関係なく、地方でも訪日外国人などが訪れて来ている。

■社会連携の相談窓口が設置されたことは画期的。これまで熱意のある人がいても、その人の思いを受け止め、活躍をサポートする環境がなかった。ついに、ここまで来たかという印象。今後の展開が期待できる。

■これまで続けてきたイベントをベースに考える50代以降のイベント主催者と新たな価値観を持った若い世代との世代間ギャップが生じている。

■ここ数年、シティプロモーションが劇的に良くなっている。SNSの投稿ややらまいか通信などを使って知らない人にも自分たち市民が仲間内に拡散（間接的に伝えることが）できることがいい。

■デジタル活用して発信・共有することで、地域活動等に参加できなかった人に活動の魅力や報告ができ、次の参加を促すことができる。



■外国人との共生においては、互いの文化の理解が重要。生活をする上での最低限のルールや「やさしい日本語教育」の環境の充実強化が急務。

■スポーツ（スポーツ教室など）は賛沢なものになりつつある。特に、外国人市民のご家庭にとっては、経済的な負担が重く、外国人の子は運動に苦手意識を持っている子が多い印象。市民の健康管理の面からも心配。



（令和5年7月末現在／順不同・敬称略）

輝く「ふくろい」まち・ひと・しごと創生会議[ふくろい部会]メンバー

株式会社杏林堂薬局	取締役副会長 青田 英 行	静岡県立農林環境専門職大学	学 長 鈴 木 滋 彦
Realabo(料理講師、ITサポート)	代 表 足 立 美 和	袋井商工会議所	会 頭 豊 田 浩 子
学校法人山名学園 山名幼稚園	理 事 長 諸 井 理 恵	静岡理工科大学	事務局長 久 留 島 康 仁
安間製茶	代 表 安 間 孝 介	アスリートクラブ	主 宰 岡 田 千 詠 子
袋井市観光協会	理 事 大 場 和 明	静岡大学情報学部	教 授 遊 橋 裕 泰
		日本貿易振興機構(JETRO浜松)	所 長 永 盛 明 洋